65才以上を対象に調査
高血圧が一八〇名
制度を利用しない人が半数

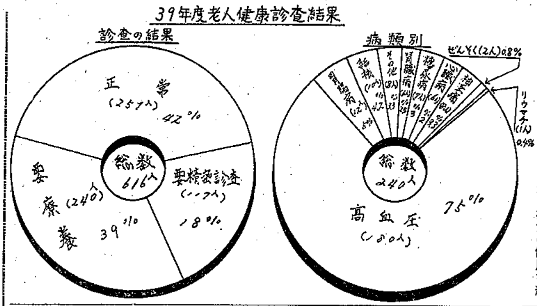
老人福祉法による健康診査の結果がこのほどまとまりました。

ことしは38年にくらべ診査の範囲がひろげられ六十五才以上の老人の三分の一にあたる一、二九三人がその対象になりました。

一般、精密両診査の結果はグラフのとおりですが、療養を要すると判定された人はその四割を占め、そのほとんどは高血圧となっております。

なお、折角の制度を約半数の人が利用されなかったことは残念なことで、健康に自信がある方でもせめて年一回はこのような診査を受けられることをおすすめいたします。

39年度老人健康診査結果



一〇〇人に一人が結核患者
まだ低い受診率
結核健康診断（れんとげん）

昭和三十九年度の結核健康診断間接撮影の新津市の受診結果がまとまりました。成績は七七・七二%で、昭和三十八年度に比べて二・七六%の上昇率となっております。しかし新津保健所管内（三市三町一村）の平均七九・四%からみてまだ低い成績であります。

結核は新薬の出現と医学の進歩で死亡する人が少なくなったといわれております。このことが結核を軽視する風潮を呼び「れんとげん」撮影の受診低下となって現われてきているのではないかと思われます。

新津市内の結核患者は十二月末日現在六七七名（医師から届出のあったもの）で市民一〇〇人に一人が結核患者であるということに寒心にたえない状況であります。

結核は知らない間にかかり、また知らない間に他人にうつすという恐ろしい病気ですが、早いうちに発見して治療すればなおる病気であります。

最少限年に一回は「れんとげん」による健康診断をうけ自分の体の状態を知っておくようにいたしましょう。

冬に多い火災
六千六百万円を灰に
新津市内39年中の火災発生33件

39年中に新津市内に発生した火災は、全半焼あわせて33件で、それによる損害額は六千六百六十七万一、九一〇円（焼損面積三、〇三五平方メートル）という多額な財産を焼失しております。

火災はちょっとの不注意から起こるもので、みすみすこのような多額の財産を灰にしてしまっているのです。

これを予防するためには一人一人の不断の心掛以外ないのです。

新津市に発生した火災を年間を通じてみてみますと、十二月の六件を最高に一月三件、二月、三月それぞれ五件と、火気を取扱う季節に集中しております。

まだまだ寒い日が続きますが、つぎの点に十分注意し、火災を未然に防ぐよう心がけてください。

一、たばこ　吸がらは灰皿など所定のものに入れ、山林、空地、道路などに火のついたまま捨てないこと。

二、こたつ　①こたつには必ず金網のついた完全な目皿をし、こたつの中で手拭手袋などを乾燥しないこと。②こたつの加熱に注意し、火を入れたままで外出しないこと。また電気こたつの場合にはスイッチを消し忘れないこと。

三、煙突、煙道の手入れ　煙突、煙道は常に手入れをし、火粉などのでないように金網を使用すること。

四、電気関係　①一般家庭の電灯ソケットの規格は六アンペア（六〇〇ワット）が限度ですから、無理なたこ足配線等はしないこと。②ヒューズのかわりに銅線や鉄線等を使用しないこと。また電線が樋、トタン屋根などに触れないようにすること。

五、子供の火遊びはさせないこと。

六、石油等油類を取扱う場合には、消火器、砂等を用意しておくこと。

成人になった人と国民年金

一月十五日は成人の日でしたが、この日は、おとなになったことを自分で自覚するとともに、まわりの人や、国民のすべてが、これからの日本をになって立ち社会のためにつくそうとする青年を祝いはげます日でした

日本国民は、二十才になると法律の上でも成人として一人前の扱いをうけ、選挙権もあたえられ名実ともに社会人として出発することとなるのですが、いま一つ忘れてはならないことは、国民年金の加入者となるのだということです。

国民年金は二十才から六十才までの日本国民で厚生年金や共済組合に加入していない人たちが必ず加入しなければならない年金制度であるからです。

二十才になった青年達には、年金などといってもまだまだ遠い将来のことだと考えがちで、近い将来就職して被用者年金に加入することが予想され、また結婚を目前にひかえているため、国民年金の保険料を納めても掛け捨てになるのではないかと不安に思う人も多いのではないかと推測されます。しかし、この人たちには、すでに各年金制度間を通算する制度が設けられ、将来、厚生年金や共済組合などに加入しても国民年金が掛け捨てにならないように措置されていることも認識してほしいものです。

国民年金への加入の手続は、加入者が直接届出するか、また世帯主が本人にかわって届出することもできることになっており、その手続は簡単ですから市役所民生課へお出でください。

どんぐりの贈りもの
越冬する公園のモン太らに

秋葉公園の猿は親子四匹となって、公園を訪づれる人達にあいきょうをふりまいておりますが、また来た冬を迎え、親の方はなかなか箱檻に入らないので、今年はいまのままの小屋で、孤がけにしまして中を温かく外からものぞかれるようにしました。

この長い冬を迎えるモン太ら親子に、この度市内程島の奇特のお方から「子供たちが拾ってくれたものです」と、どんぐりの実約十キログラムを商工観光課に届けられました。

お猿達は、この温かい贈りものに感謝しながら雪を眺めてポリポリとどんぐりの実をかじっております。

職安の内部機構が変る

求人者と求職者の一層の便宜と強力な職業あっ旋を図るため二月一日より職安の内部機構が変ります。これにより職安を訪問した事業主は、求人、失業保険関係などすべて事業所課で用が足りることになります。一方求職関係についても職業相談、失業保険の資格決定、支給金額の決定等、一連の事務は職業紹介課の紹介第1係で、新規学卒の職業紹介と日雇の職業紹介は第2係でそれぞれ取り扱うことになりました。

これにより求人、求職の一連の事務が集中され、利用者の便利と同時に、積極的な職業紹介と厳正な失業保険事務が図られるものと存じます。

ママの手帳

二月の健康　例年二月ごろは、流行性感冒がはやりがちです。予防注射も普及して行なわれるようになりましたが、まず家庭生活を規律的に、ウガイを励行することが大切です。

またこのごろから五月にかけてハシカが流行しやすいものです。ハシカはそれ自体たいした病気でないにしても、肺炎や中耳炎を併発しやすいものです。幼児は一度はかかるものなどと安易に考えないで、近所に流行しはじめたら、あらかじめ医師に相談しておきましょう。

新入学児童のいる家庭では入学前の身体検査を必ず受けさせましょう。

教育委員会から通知があるはずですが、もしなければ問い合わせること。

また種痘やジフテリア予防接種もすませておかねばなりません。

新入学の通学衣服計画　新入学のこどものために、ぼつぼつ通学服のプランを考えておきましょう。はじめにあれこれ作りすぎて、校風に合わなかったり、友だちとあまりかけはなれたりしていると、こどものためにもなりません。いままで着ていたもののなかから、通学用になるものをえらんで利用し足りないものだけを新調することにしたいものです。

また制服のきまりのない中学や高校、大学へ進むこどもは、とくに女の子の場合、上級にすすむにつれて、それぞれ自分の好みもでてきたり、集団の中でどのように自分の衣服を選んでいくかをみずから決めるように仕向けることもたいせつでしょう。

二月の食生活　二月という月はいちばん野菜の不足する月といえます。その中で年中やおやさんの店先きにあるのが豆もやし、とくにこの豆もやしは二月がいちばんおいしいのだそうです。生やさいの少ないときなのでこのもやしに含まれているビタミンCは貴重なものです。調理する時、このCをのがさないようにするのがコツ、つまりゆですぎたり煮すぎたりしないことです。

このほかにんじんは最近品種の改良と栽培技術の進歩で一年中食卓にのせられるようになりました。にんじんはビタミンAを含んでおり、なまで食べるのがいちばん。こどものなかには、案外このにおいをきらう子がいますが、塩もみにしてサラダに混入したり、油いためしてやるとよろこんで食べるものです。おとなにもこどもにもたくさんにんじんを食べさせてあげましょう。

みかんもそろそろ品うすになりますが、ネーブル・イヨかんが出回ります。少々値がはりますがビタミンCの補給源として貴重です。

暖房と家庭衛生　最近は、暖房器具の普及で室や台所をあたたかくするくふうが、どこの家庭でもゆきとどくようになってきました。これはたいへん結構なことに違いありませんが、一面衛生的には冬という観念をある程度修正しなければならないことです。

わたくしたちは冬は食物が腐らないという先入感をもっています。しかし、台所や室を暖房していることは、その温度いかんによりますが一応二十度とすると六月か九月の気候ということです。その状況では、赤痢菌もサルモネラ菌でもどんどん繁殖する条件下にあるといえるのです。

そこで、カマボコ、ハンペン、ハム、卵焼きなどは、冷蔵庫のある家庭ではその中に、ない場合は、暖房してない冷い場所におさめておく必要があります。

自衛隊は若人の規律ある団体生活をとおして人間形成に必要な教育を行なっております。

○給与　衣食住を換算すると初任給で二万円以上となり、経済的にも自立できる資金の貯蓄ができます。

○技術修得　一生役だつ技術教育が行なわれ優秀な高度の技術が修得できます。

入隊后就職を希望する人には「職業訓練制度」も設けられました。

くわしいことは市役所総務企画課にお問い合わせください。